



2024年3月22日（金）

愛知県教育委員会教育部

義務教育課 教科指導・人権教育グループ

担当 野田、吉川

内線 3915、3913

ダイヤルイン 052-954-6799

高等学校教育課 教科・定通指導グループ

担当 鶴見、森本

内線 3903、3904

ダイヤルイン 052-954-6787

「ラーケーションの日」に関するアンケート調査の結果について

愛知県教育委員会では、「愛知県『休み方改革』プロジェクト」の一環として、家族と子供と一緒に過ごせる仕組みづくりに取り組んでいます。

このうち、昨年9月以降に各市町村・学校において順次スタートした「ラーケーションの日」について、その成果や課題を検証し、今後の改善に役立てるためのアンケート調査を行いました。調査は、53市町村の教育委員会と、全ての県立高校・特別支援学校に依頼して行いました。

この度、調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

【市町村立学校】別紙1

1 結果の概要

- アンケートに回答した保護者のうち、子供が「ラーケーションの日」を「既を取得した」が17.3%、「取得する予定」が18.1%でした。「取得したいが、仕事の都合で難しい」という保護者は23.6%でした。
- また、保護者がよいと思うこととして、「土日に休みにくい家庭でも、子供とのふれあいが増える」が64.5%、負担に感じることで、「ラーケーションの日のために仕事の休みを取る」が39.6%でした。
- 「ラーケーションの日」に行った活動内容は、「屋外での体験活動」（51.6%）、「歴史や文化にふれる活動」（32.8%）、「学習関連施設（美術館、博物館等）の訪問」（27.4%）などでした。
- アンケートに回答した教職員のうち、自分の子のラーケーションの日のために有給休暇を「既を取得した」が4.4%、「取得する予定」が4.7%、「取得したいが難しい」は38.5%でした。
- また、教職員の約6割（59.9%）が、「給食に関する事務が煩雑である」としていました。
- 「ラーケーションの日」の導入に伴う事務負担を軽減するため、モデル校に配置した校務支援員等については、「非常に有効」が68.1%、「比較的有効」が25.5%で、合わせて9割以上の学校が有効であると回答していました。
- 「自分の子供のラーケーションのために有給休暇を取得した教職員がいた」と回答した学校の割合は、校務支援員を配置したモデル校が16.5%で、モデル校以外の7.9%の約2倍でした。

2 調査の概要

- (1) 調査実施期間 2024年1月10日(水)から2月2日(金)まで
 (2) 調査基準日 2024年1月10日(水)
 (3) 調査方法 インターネットアンケート
 (4) 調査対象・回答者数

教育委員会	モデル事業※に参加している市町			モデル事業に参加していない市町村			合計
	18			17			35
学 校	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校	合計	
	411	159	2	1	4	577	
教職員	校長・教頭	主幹・教諭	事務職員	講師	その他	合計	
	767	8,240	386	1,317	328	11,038	
保護者	小学生のみ		中学生のみ	小中学生両方		その他（高校生など）	合計
	28,143		10,342	10,081		141	48,707

■参考 県内53市町村の学校数・教職員数・児童生徒数(2023年5月1日現在)

学 校 数	1,005 校	(小学校 699 中学校 299 義務教育学校 2 高等学校 1 特別支援学校 4)
教 職 員 数	30,446 名	(小学校 19,377 中学校 10,625 義務教育学校 58 高等学校 46 特別支援学校 340)
児童生徒数	431,559 名	(小学校 283,821 中学校 146,196 義務教育学校 432 市立高等学校 605 特別支援学校 505)

※ モデル事業：ラーケーションを取得した児童生徒の給食費の会計処理など、事務の増加に対応するため、各学校に校務支援員等を配置する事業。

【参加市町】瀬戸市・尾張旭市・豊明市・日進市・長久手市・東郷町・犬山市・大府市・東浦町
 武豊町・刈谷市・豊田市・安城市・西尾市・みよし市・幸田町・豊橋市・豊川市

(5) 主な調査項目

- 保 護 者：「ラーケーションの日」の取得状況・認知度・よさ・負担感・活動内容／自由記述
- 教 職 員：有給休暇の取得状況／教職員が感じた児童生徒や保護者の様子／
「ラーケーションの日」の課題
- 学 校：「ラーケーションの日」の取得状況／校務支援員等の有用性／
子供のラーケーションのために有給休暇を取得した教職員がいた学校の割合
- 教育委員会：「ラーケーションの日」の効果／校務支援員等の配置状況

【県立学校】別紙2

1 結果の概要

- アンケートに回答した高校生のうち、「ラーケーションの日」を「既に取得した」が11.5%、「取得する予定」が19.4%でした。「取得したいが、保護者の仕事の都合で難しい」が15.0%、「取得するつもりはない」が50.8%でした。
- また、高校生がよいと思うこととして、「土日に休みにくい家庭でも、子供とのふれあいが増える」が53.4%、負担に感じることとして、「受けられなかった授業内容を自習等で補う」が41.3%、「学校にラーケーションの日を届け出る」が40.3%でした。
- アンケートに回答した保護者のうち、子供が「ラーケーションの日」を「既に取得した」が11.0%、「取得する予定」が14.1%でした。「取得させたいが、仕事の都合で難しい」が19.0%、「取得させたいが、子供が取りたがらない」が7.6%でした。
- また、保護者がよいと思うこととして、「土日に休みにくい家庭でも、子供とのふれあいが増える」が42.5%、負担に感じることとして、「ラーケーションの日のために仕事の休みを取る」が42.1%でした。
- 「ラーケーションの日」について、保護者、高校生ともに約9割が認知しており、「ラーケーションの日」のルールについても、「登校しなくても、欠席にはならない」ことを約7割が、「学校外で体験や学びの活動をする日である」ことを約6割が認知していました。
- 「ラーケーションの日」に行った活動内容は、「屋外での体験活動」、「歴史や文化にふれる活動」、「学習関連施設（美術館、博物館等）の訪問」などでした。
- アンケートに回答した教職員のうち、自分の子のラーケーションの日のために有給休暇を「既に取得した」が10.9%、「取得する予定」が7.2%、「取得したいが難しい」は31.9%でした。

2 調査の概要

- (1) 調査実施期間 2024年1月17日（水）から2月7日（水）まで
- (2) 調査基準日 2024年1月10日（水）
- (3) 調査方法 インターネットアンケート
- (4) 調査対象・回答者数

学 校	高等学校	特別支援学校		合計			
	149	29		178			
教職員	校長・教頭	教諭	実習助手	事務職員	講師	その他	合計
	219	2,475	140	58	288	156	3,336
生 徒	高等学校1年生	高等学校2年生		高等学校3年生	高等学校4年生		合計
	8,011	7,117		4,778	87		19,993
保護者	高等学校	特別支援学校		合計			
	17,603	1,031		18,634			

■参考 県立学校の教職員数・児童生徒数（2023年5月1日現在）

学 校 数	178 校	（高等学校 149 特別支援学校 29）
教 職 員 数	11,489 名	（高等学校 8,326 特別支援学校 3,163）
児童生徒数	112,898 名	（高等学校 107,141 特別支援学校 5,757）

（5）主な調査項目

- 保 護 者：「ラーケーションの日」の取得状況・認知度・よさ・負担感・活動内容／自由記述
- 生 徒：「ラーケーションの日」の取得状況・認知度・よさ・負担感・活動内容／自由記述
- 教 職 員：有給休暇の取得状況／教職員が感じた児童生徒や保護者の様子／
「ラーケーションの日」の課題
- 学 校：「ラーケーションの日」の取得状況

【その他】

1 2024年度の「ラーケーションの日」の実施

- 53市町村と全ての県立高校・特別支援学校において、引き続き実施します。

2 2024年度の保護者用リーフレット **別紙3**

- 「ラーケーションの日」の制度について周知するために配付しました。

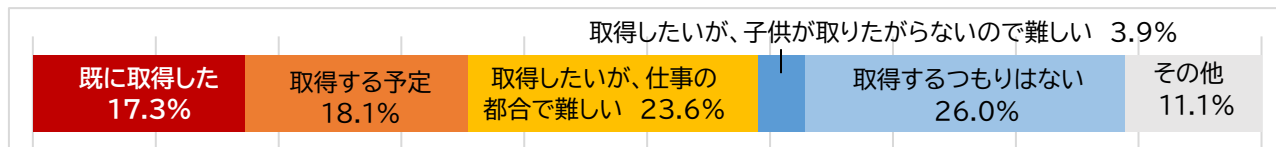
※ 県立学校は今後配付する予定

「ラーケーションの日」アンケート調査について（市町村立学校）

保 護 者

回答者	小学生のみ	28,143 名	中学生のみ	10,342 名
	小中学生両方	10,081 名	その他（高校生など）	141 名
			合計	48,707 名

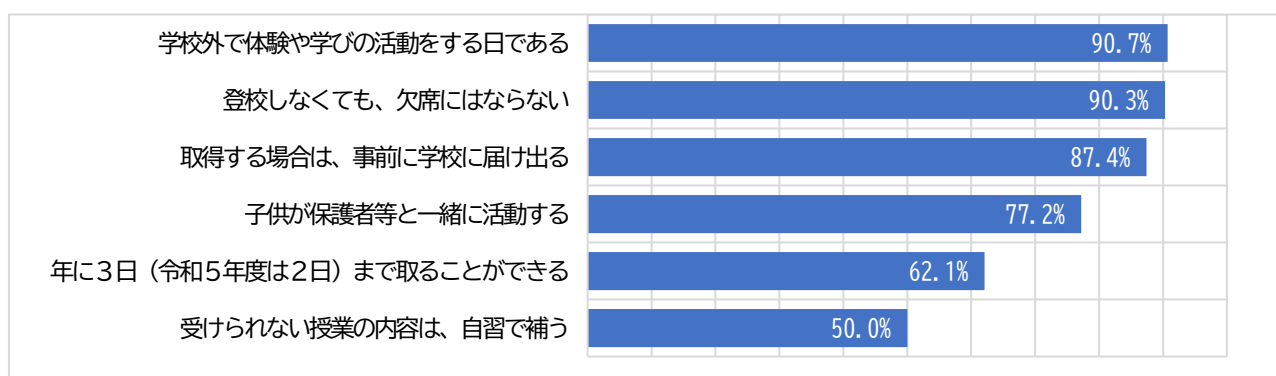
■ 「ラーケーションの日」を取得したか



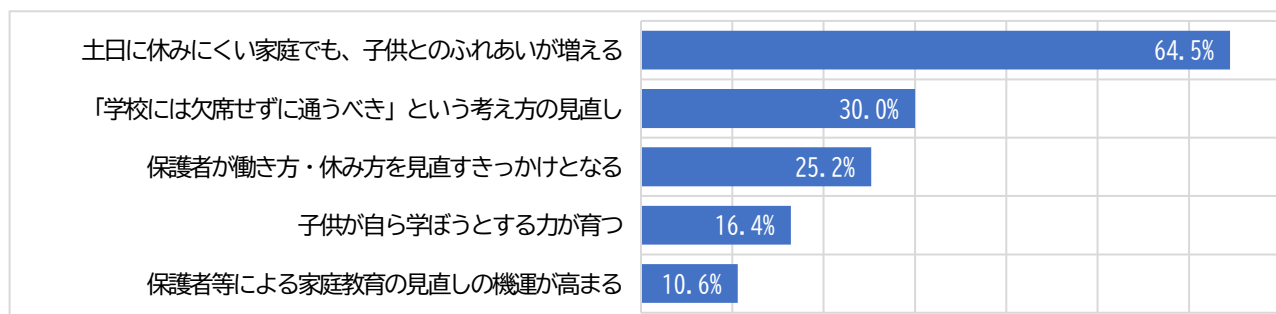
■ 「ラーケーションの日」を知っているか



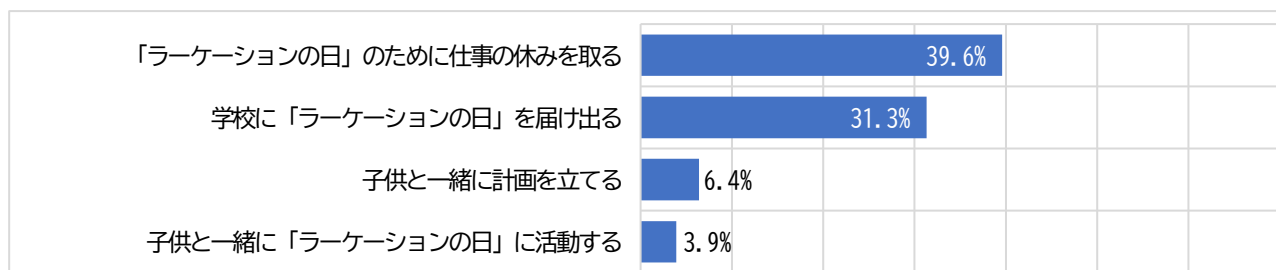
■ 「ラーケーションの日」のルールのうち、知っていることは何か（複数回答可）



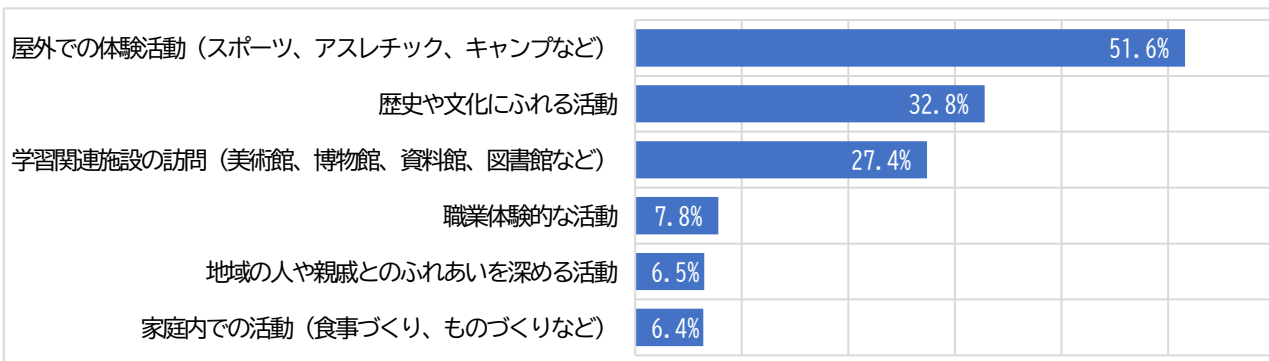
■ 「ラーケーションの日」でよいと思うこと（複数回答可）



■ 「ラーケーションの日」で負担に感じる事（複数回答可）



■ 「ラーケーションの日」にどのような活動をした、またはするつもりか（複数回答可）



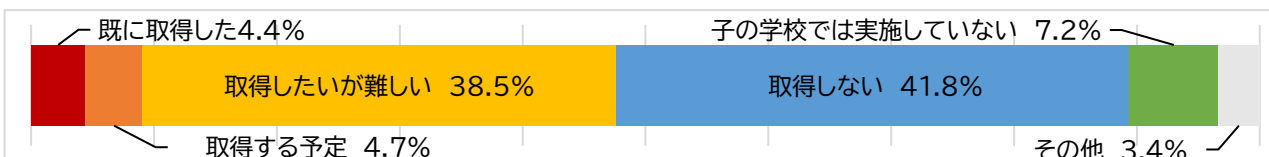
■ 自由記述（一部）

- ・ 混雑を避けて、平日に家族で活動ができることがうれしい。
- ・ 子供のやりたいことや行きたい場所、見てみたいものなどについて、普段とは違う会話ができ、新しいことに挑戦するきっかけになった。
- ・ サービス業や医療、福祉関係などで土日仕事の保護者にとっては、とてもよいと思う。
- ・ ワークライフバランスが見直されるなか、義務教育についても同様の動きがあるのは自然なことなので、愛知県には是非頑張ってもらいたい。
- ・ 「ラーケーションの日」を取ったことによって（取らないことによって）、友達の中で浮いてしまわないか心配である。
- ・ 学習の進度が心配で、まだ学校を休ませることに不安がある。
- ・ 職場の事情により、仕事が休みづらく、家族の予定を合わせることが難しい。

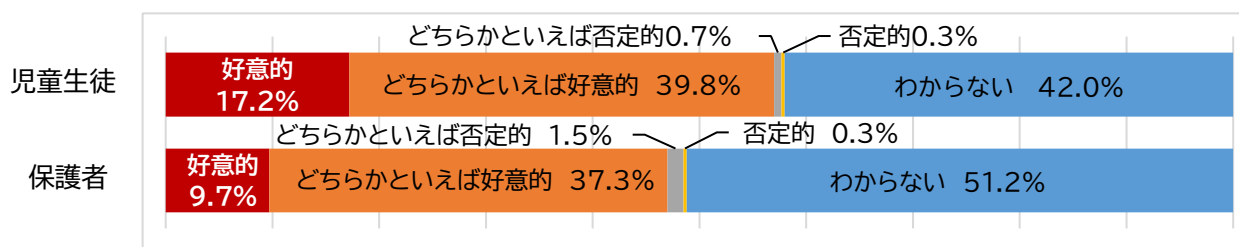
教 職 員

回答者 校長・教頭 767 名 主幹・教諭 8,240 名 事務職員 386 名
講師 1,317 名 その他 328 名 合計 11,038 名

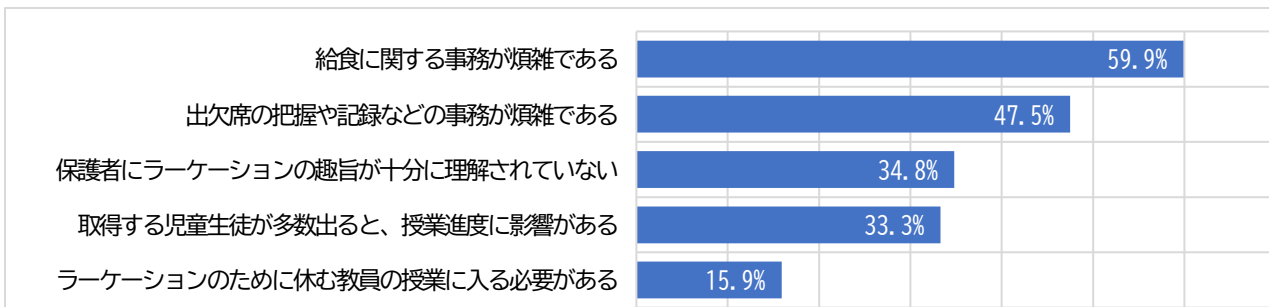
■ 自分の子の「ラーケーションの日」のために有給休暇を取得したか



■ 教職員が感じた児童生徒・保護者の様子



■ 「ラーケーションの日」の課題（複数回答可）



学 校

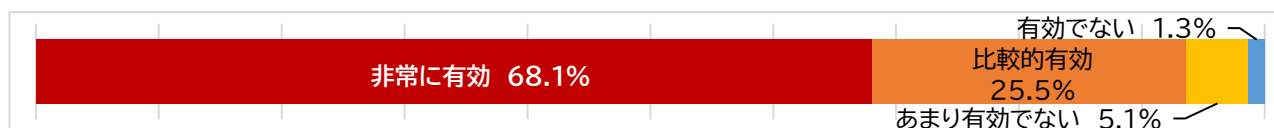
回答校 小学校 411 校 中学校 159 校 義務教育学校 2 校
高校 1 校 特別支援学校 4 校 合計 577 校

■ 「ラーケーションの日」取得状況

	取得率※（平均取得日数）		取得率（平均取得日数）
小学校 1 年生	18.1%（1.1 日）	中学校 1 年生	7.8%（1.2 日）
2 年生	14.0%（1.3 日）	2 年生	8.6%（1.3 日）
3 年生	13.2%（1.3 日）	3 年生	4.6%（1.3 日）
4 年生	12.8%（1.3 日）	特別支援学級	6.0%（1.3 日）
5 年生	11.5%（1.3 日）	中学校 計	7.0%（1.3 日）
6 年生	11.3%（1.3 日）	高 校 計	0.5%（1.0 日）
特別支援学級	7.7%（1.3 日）	特別支援学校小学部	8.3%（1.4 日）
小学校 計	13.2%（1.3 日）	中学部	3.4%（1.3 日）
		高学部	10.6%（1.5 日）
		特別支援学校 計	7.9%（1.4 日）

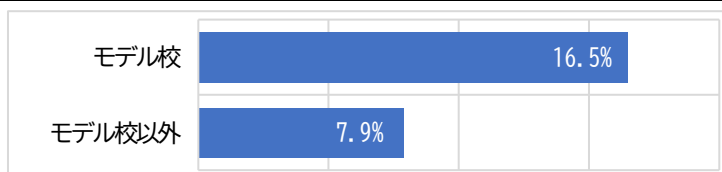
※取得率：全校児童生徒のうち、「ラーケーションの日」を取得した児童生徒の割合

■ 校務支援員等※の有用性（校務支援員等が配置されたモデル校のみ回答：314 校）



※ 校務支援員等……ラーケーションを取得した児童生徒の給食費の会計処理など、事務の増加に対応するため、モデル校に配置される職員

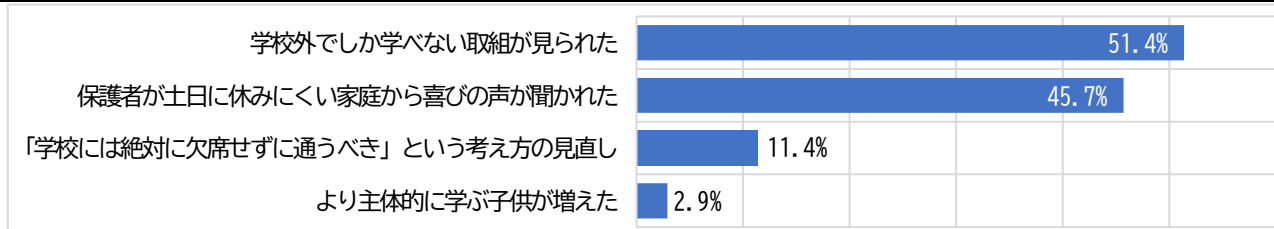
■ 自分の子供のラーケーションのために有給休暇を取得した教職員がいた学校の割合



教育委員会

回答者 モデル事業に参加 18 市町
モデル事業不参加 17 市町村 合計 35 市町村

■ 「ラーケーションの日」について、効果を感じたこと（複数回答可）



■ 校務支援員等の配置状況

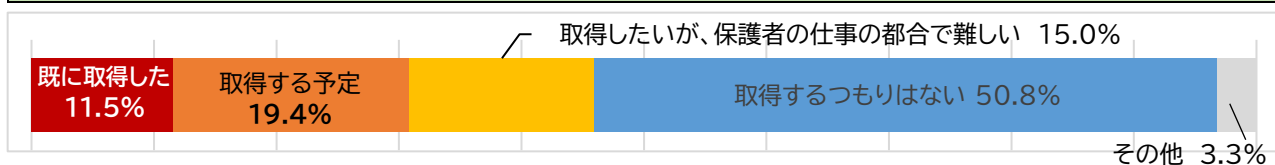


「ラーケーションの日」アンケート調査について（県立学校）

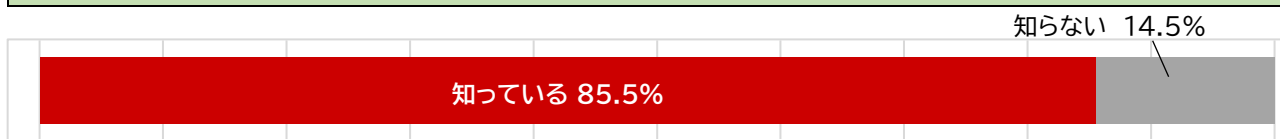
生徒

回答者 高校生 19,993 名

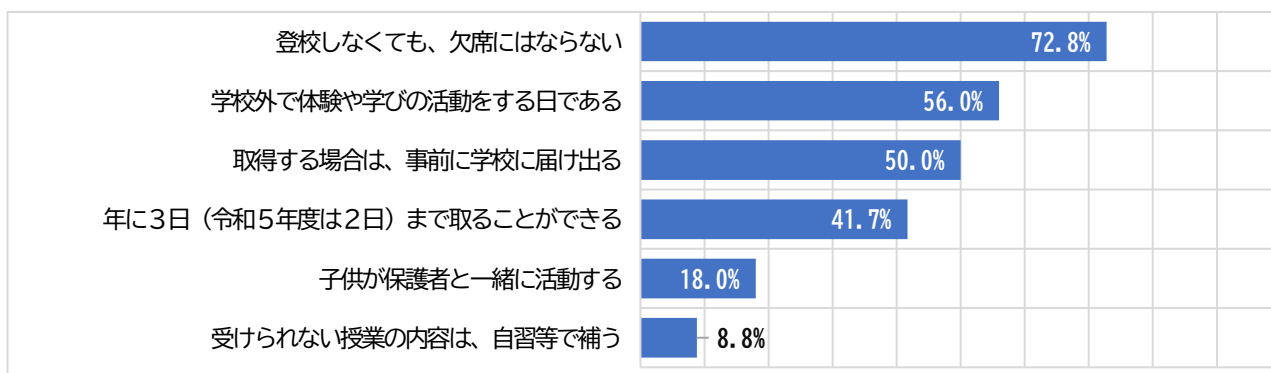
■ 「ラーケーションの日」を取得したか



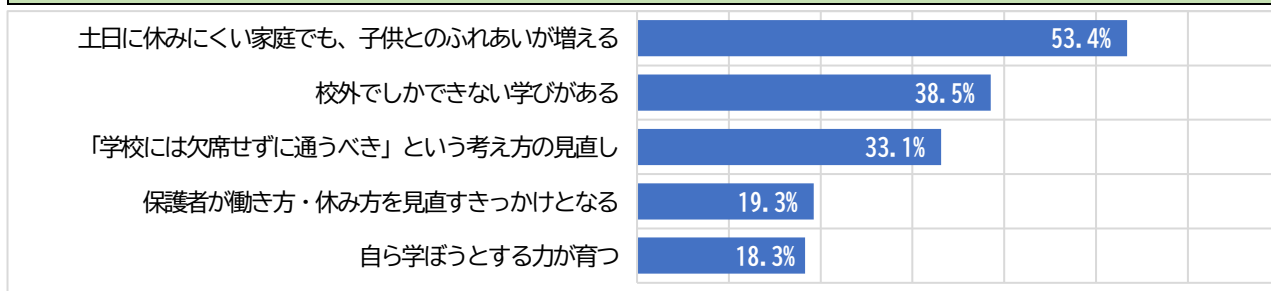
■ 「ラーケーションの日」を知っているか



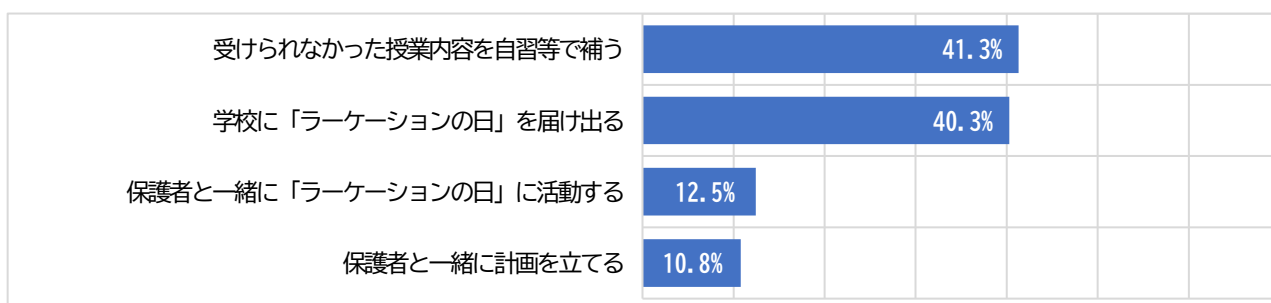
■ 「ラーケーションの日」のルールのうち、知っていることは何か（複数回答可）



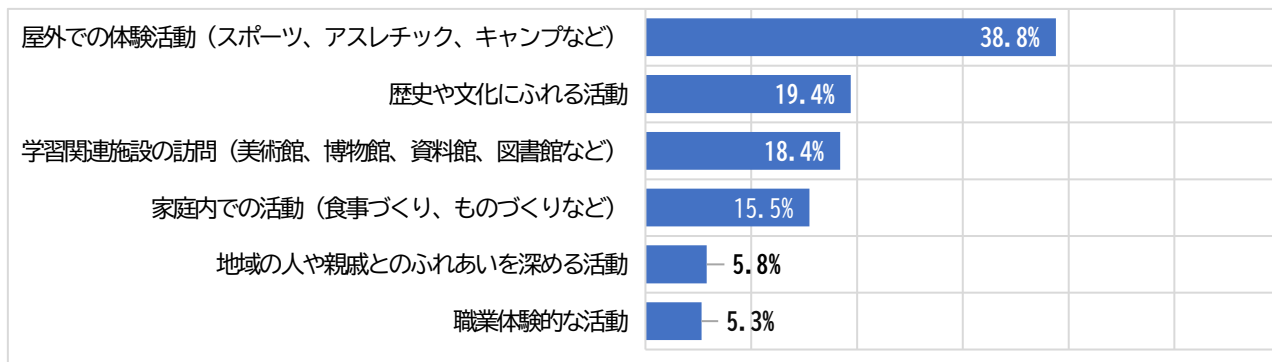
■ 「ラーケーションの日」でよいと思うこと（複数回答可）



■ 「ラーケーションの日」で負担に感じること（複数回答可）



■ 「ラーケーションの日」にどのような活動をした、またはするつもりか（複数回答可）



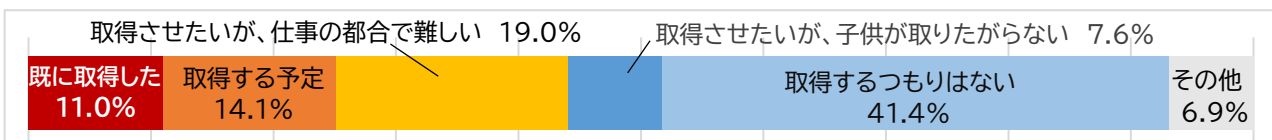
■ 自由記述（一部）

- ・ 学校生活にゆとりができると共に、家族との交流も増えるなど、他にも様々な良い効果が出ていると思う。
- ・ 学校に行かなくてはならないというプレッシャーが強く、あまり学校を楽しめなかったが、ラーケーションという学校を気にしないで楽しむ時間があるだけで家族との会話も広がり、学校も頑張ろうという自信にもつながった。
- ・ 授業や実習の遅れ、部活動に行けないことなどが心配で取れない。
- ・ 親が休めないので、取ることができない。
- ・ 周りの目などが気になり、取得することの心理的なハードルが少し高いかもしれない。
- ・ 友達同士や一人での活動も認めてほしい。

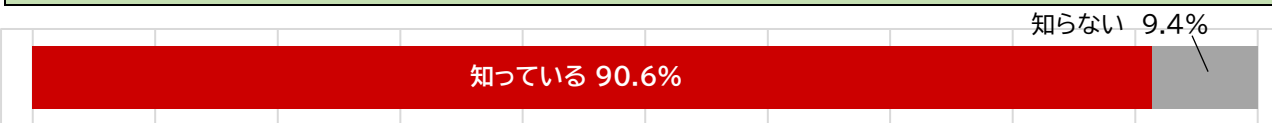
保 護 者

回答者 高校保護者 17,603 名 特別支援学校保護者 1,031 名
合計 18,634 名

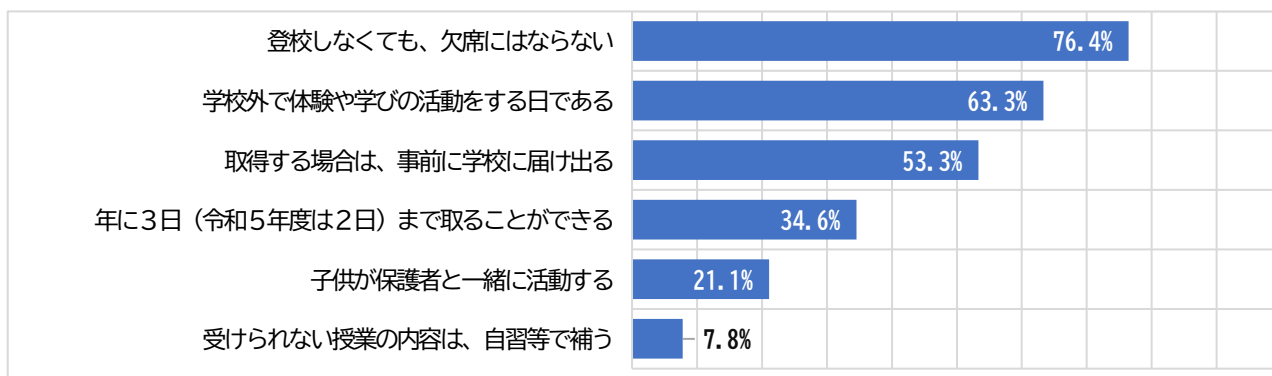
■ 「ラーケーションの日」を取得したか



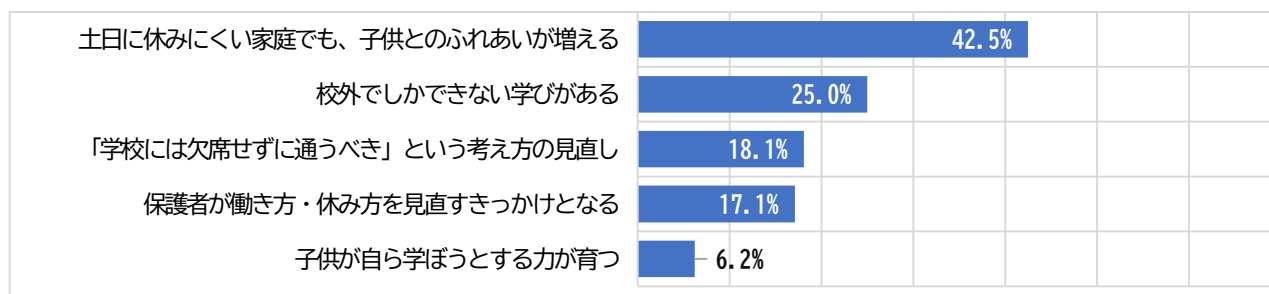
■ 「ラーケーションの日」を知っているか



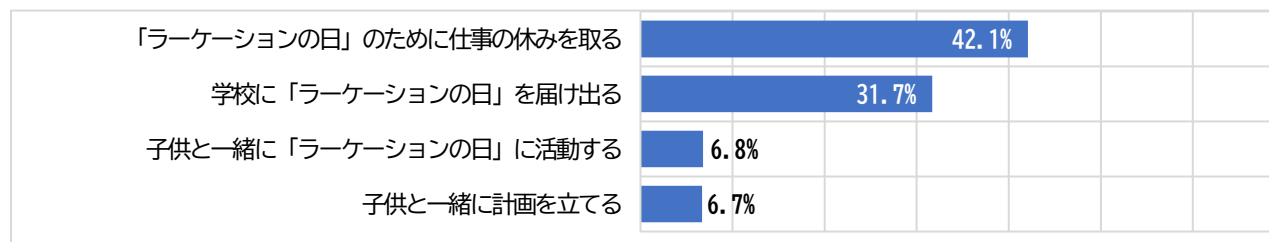
■ 「ラーケーションの日」のルールのうち、知っていることは何か（複数回答可）



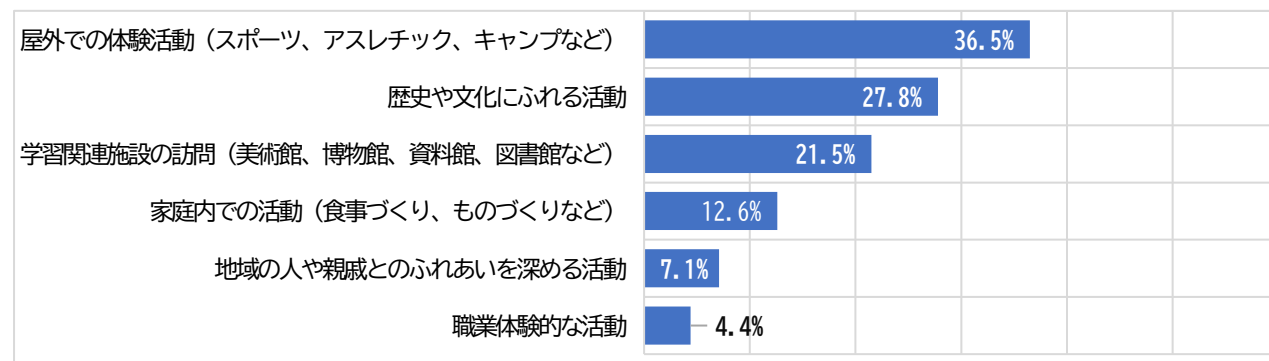
■ 「ラーケーションの日」でよいと思うこと（複数回答可）



■ 「ラーケーションの日」で負担に感じること（複数回答可）



■ 「ラーケーションの日」にどのような活動をした、またはするつもりか（複数回答可）



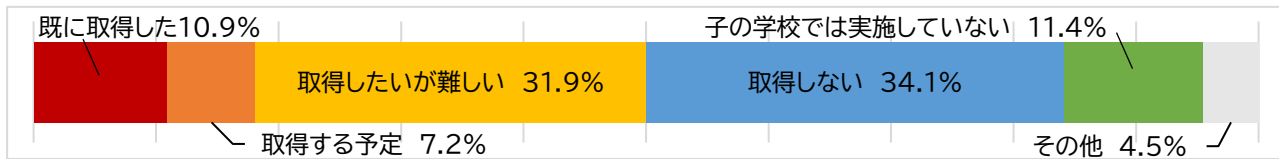
■ 自由記述（一部）

- ・ 子供との時間の過ごし方を考えるきっかけや、いろんなことを話すきっかけになった。
- ・ 休み方、学校への通い方、仕事の仕方について考え直す良いきっかけになった。家庭により様々な使い方があってよい。
- ・ 親と行動する機会が少ない高校生こそ、より取得する意義があると感じた。
- ・ 子供や保護者が日常を見直すことで、子供が社会性を身につける、視野を広げる等につながることを期待する。
- ・ とても良い取組であると思うが、子供が授業や実習、部活があるからといって取りたがらない。
- ・ 子供同士又は一人で計画させ、大学見学や観劇、スポーツ教室、ボランティア活動することなども認めてはどうか。
- ・ 勤務先の理解がないと休めない。企業への周知が不足している。

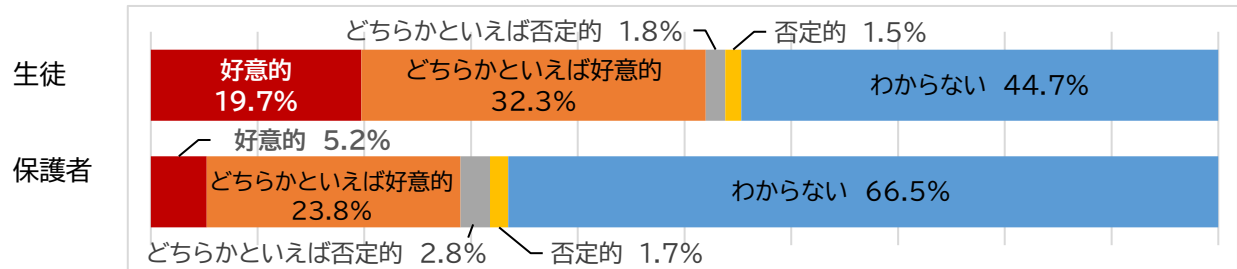
教 職 員

回答者 校長・教頭 219 名 教諭 2,475 名 実習助手 140 名
事務職員 58 名 講師 288 名 その他 156 名 合計 3,336 名

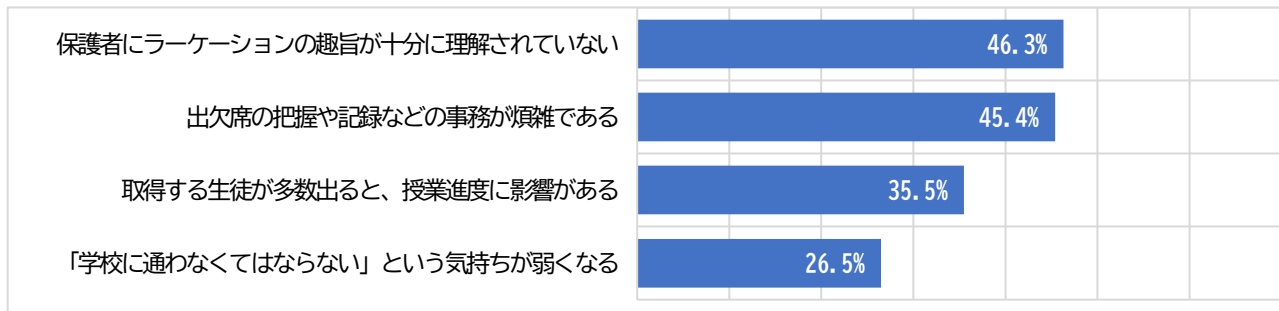
■ 自分の子の「ラーケーションの日」のために年休を取得したか



■ 教職員が感じた児童生徒・保護者の様子



■ 「ラーケーションの日」の課題（複数回答可）



学 校

回答数 高校 149 校 特別支援学校 29 校
合計 178 校

■ 「ラーケーションの日」取得状況

高等学校	取得率※（平均取得日数）	特別支援学校	取得率（平均取得日数）
1年生	6.4%（1.3日）	小学部	12.9%（1.3日）
2年生	7.6%（1.3日）	中学部	8.8%（1.3日）
3年生	9.1%（1.4日）	高等部	9.4%（1.2日）
4年生	8.0%（1.4日）	計	11.2%（1.3日）
計	7.7%（1.3日）		

※取得率：全校児童生徒のうち、「ラーケーションの日」を取得した児童生徒の割合



Q1 愛知県は、どうして「ラーケーションの日」を作ったのですか。

A1 愛知県「休み方改革」プロジェクトでは、県全体のワーク・ライフ・バランスの充実と生産性向上による地域の活性化を目指しており、その一環として「ラーケーションの日」が生まれました。総務省の調べでは、土曜日に働いている方が約45%、日曜日に働いている方が約30%おられ、休みの日に子供と一緒に過ごすことが難しいご家庭が少なくありません。そうしたご家庭でも、平日に、子供と一緒に学び、活動することができるよう、「ラーケーションの日」を作りました。

Q2 「ラーケーションの日」を連続して取ることはできますか。また、残った日数は、次の年に繰り越すことはできますか。

A2 「ラーケーションの日」を連続して取ることはできますが、残った日数を次年度に繰り越すことはできません。

Q3 「ラーケーションの日」に、どこかへ旅行に出かけてもよいのですか。

A3 ラーケーションは、ラーニング(学び)+バケーション(休暇)ですので、学びの要素が必要です。学びの要素があれば、旅行に出かけることもできますが、大切な授業の代わりの活動ですので、家庭でよく話し合っ計画を立ててください。なお、どこかへ出かけなくても、ラーケーションは可能です。

Q4 どのような活動であればラーケーションになるのですか。

A4 ラーケーションは、①保護者と一緒に行く、②体験や探究の学び・活動です。そのため、①②を満たす活動がラーケーションということになります。「ラーケーションの日 活動例」や、「学びのキーワード」などを参考にして、子供と話し合い、「何を学ぶか」をはっきりさせる必要があります。身近な場所にも、学びの種はたくさんあるはずですよ。

Q5 昨年度と比べて変わった点がありますか。

A5 (例)給食費のご負担の有無にかかわる届出期限が変更となりました。これは、事前に食材の発注を完了させる必要があるため、前月の●日を過ぎて届け出をされた場合は、給食費のご負担をいただくことになります。なお、「ラーケーションの日」の届け出そのものについては、前日まで可能です。

学校・市町村でカスタマイズ

<お問い合わせ先>

■ 制度全般に関すること	愛知県教育委員会 義務教育課	052-954-6799
■ 届け出等に関すること	●●市(町村)教育委員会	0000-00-0000
	●●市立●●学校	0000-00-0000

(令和6年度 保護者用リーフレット)

別紙3

愛知発の新しい学び方

「ラーケーションの日」

ラーニング + バケーション
Learning (学び) + Vacation (休暇)



愛知県では、未来につながる家庭での主体的な学び・体験的な学びを応援するために、昨年度、「ラーケーションの日」を設けました。

子供の学び(ラーニング)と、保護者の休暇(バケーション)を組み合わせ、平日だからこそできる学校外での学習活動を、ぜひ子供と一緒に計画してみませんか。

令和6年●月
愛知県教育委員会
●●市(町村)教育委員会

ラーケーションの日とは

愛知県全体の「休み方改革」プロジェクトの中で生まれた「ラーケーションの日」は、

子供が保護者等とともに、平日に、校外(家庭や地域)で、体験や探究の学び・活動を、自ら考え、企画し、実行することができる日です。

校外での自主学習活動であるため、学校に登校しなくても欠席とはならず、「出席停止・忌引等」と同じ扱いとなります。保護者等の休暇に合わせ、年に3日まで取ることができます。

ラーケーションの日 活動例

「学びのキーワード」や、下記の活動例を参考に、「何について学ぶか」を事前に子供と話し合うことから「ラーケーションの日」は始まります。学校外でしかできない学びを、子供と一緒に計画しましょう。

■ 学びのキーワード ■

自然・科学・環境・実験・観察・産業・スポーツ・文化・芸術・歴史・地理・伝統芸能・国際理解・福祉・SDGs・見学・創作・鑑賞・キャリア…

再発見！ 地域の史跡を巡ろう

平日は史跡をじっくり見学したり、ガイドさんから詳しく話を聞いたりできます。
地元や近隣にも意外と史跡はあるものです。



見つけた！ 公園の植物を調べよう

庭や公園で見つけた植物について親子で一緒に調べてみましょう。
学びのきっかけは身近なところにもたくさんあるはずです。



収穫の喜び 家族と収穫体験をしよう



私たちが口にしていく野菜は、どのように育てているのでしょうか。
収穫体験など、ふだんできないことを家族で体験してみましょう。

親子で芸術家 お互いのよさを比べ合おう



素敵な風景は自宅から近いところにもあふれています。
家族みんなで絵をかき、お互いのよさを比べてみましょう。

五感を使って 自然と仲良くなろう

景色を味わう、鳥の声を聴く、空気を感ずる…みんなで、自然に親しんではどうでしょう。
自然から学ぶことはたくさんあります。



気分はシェフ 授業で学んだことを生かそう

家庭科の授業等で学んだことを生かし、料理に挑戦しましょう。
家族だけのオリジナルレシピが完成するかもしれません。



ラーケーションの日 届け出の流れ

1 計画を立てる

子供と一緒に、「ラーケーションの日」の計画を立てる。

計画すること

① 活動する日 ② 活動する場所 ③ 学ぶこと

<留意すること>

- ☐ 年に3日まで取ることができます。
- ☐ 保護者等と一緒に活動する必要があります。
- ☐ 受けられない授業の内容は、家庭で自習をします。
- ☐ 身近な場所にも「学びの種」はありますので、必ずしも遠くに出かける必要はありません。

※ 県の Web ページ「ラーケーションの日」ポータルサイトには、計画づくりに活用できる「ラーケーションカード」や、様々な学びを体験できるスポットを紹介していますので、参考にしてください。



「ラーケーションの日」ポータルサイト

2 届け出る

(例)●●アプリ、連絡帳、電話で、学校に届け出る。

<留意すること>

- ☐ 事前の届け出が必要です。
- ☐ (例)●●市では、前月の●日までに届け出た場合は、当日の給食費を集金しません。それ以降の届け出の場合は、食材の発注を終えているため、給食費のご負担をお願いします。
- ☐ 以下の期間は行事などの教育活動のため、ラーケーションの日を取ることができません。

(例)●●●学校でラーケーションを取ることができない日

4月●日～●日(年度はじめ) 7月●日～●日(夏祭り準備) 10月●日～●日(運動会準備)
1月●日～●日(合唱フェス準備) 3月●日～●日(卒業式練習)

学校・市町村でカスタマイズ

3 ラーケーション

子供と一緒に、校外で体験や探究の学び・活動を行う。

4 振り返る

学んだことについて子供と話し合ったり、次回の計画を考えたりする。